



平成30年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年10月3日

上場会社名 川口化学工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4361 URL <http://www.kawachem.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田吉隆  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務部長 (氏名) 荻野幹雄 (TEL) 048-222-5171  
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年11月期第3四半期の連結業績(平成29年12月1日～平成30年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年11月期第3四半期	5,474	7.1	122	△37.1	119	△36.7	88	△34.5
29年11月期第3四半期	5,112	10.9	194	—	188	—	135	—

(注) 包括利益 30年11月期第3四半期 76百万円(△49.6%) 29年11月期第3四半期 151百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年11月期第3四半期	72.83	—
29年11月期第3四半期	111.23	—

※平成30年6月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年11月期第3四半期	6,660	1,771	26.6
29年11月期	6,299	1,731	27.5

(参考) 自己資本 30年11月期第3四半期 1,771百万円 29年11月期 1,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年11月期	—	0.00	—	3.00	3.00
30年11月期	—	0.00	—	—	—
30年11月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※当社は、平成30年6月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合いたしましたので、平成30年11月期(予想)の1株当たり期末配当金及び年間配当金合計につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。なお、株式併合を考慮しない場合の平成30年11月期(予想)の1株当たり期末配当金及び年間配当金合計は3円00銭となります。詳細につきましては、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他の特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年11月期の連結業績予想(平成29年12月1日～平成30年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	7,300	4.2	180	△32.2	180	△30.4	120	△33.3
								98.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※平成30年11月期の通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しております。なお、株式併合を考慮しない場合の平成30年11月期の通期連結業績予想における1株当たり当期純利益は9円85銭となります。詳細につきましては、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他の特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 — 社、除外 — 社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

30年11月期3Q	1,220,000株	29年11月期	1,220,000株
30年11月期3Q	2,178株	29年11月期	2,137株
30年11月期3Q	1,217,849株	29年11月期3Q	1,217,902株

※平成30年6月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の配当及び業績予想について)

当社は、平成30年2月27日開催の第116回定時株主総会において、株式併合について承認可決され、平成30年6月1日付で、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。併せて同日付で単元株式数の変更(1,000株から100株への変更)を実施しております。

なお、当該株式併合の影響を考慮しない場合の平成30年11月期の配当及び連結業績予想は以下のとおりであります。

- (1) 平成30年11月期の配当予想  
 1株当たり配当金 (期末) 3円00銭
- (2) 平成30年11月期の連結業績予想  
 1株当たり当期純利益 (期末) 9円85銭

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界の景気は、引き続き米国においては着実な回復が継続し、中国をはじめ東南アジアでは景気持ち直しが継続したことにより、緩やかに回復しました。国内においても、個人消費は持ち直しが継続し、設備投資も緩やかに増加し、企業収益や雇用情勢の改善もあり、生産においても緩やかな回復が継続しました。

当社の関連する自動車業界においては、国内の自動車生産台数は前年同期並みで推移し、ゴム工業用品やタイヤ並びに合成ゴムの生産はほぼ前年並みで推移しました。

このような環境の中、既存事業の拡販に注力し、内外の新規顧客の開拓を進めるとともに新製品の提案活動を行い、顧客の内外の要請に応えるため研究・品質保証設備の拡充を行いました。

ゴム薬品は、国内外の販売数量が伸びたことから前年同期を上回りました。樹脂薬品は国内向けが競争激化により売上が減少したものの、海外向けで新規受注もあり売上を伸ばしました。中間体は品目により増減があり、全体で売上は前年同期を下回りました。その他薬品は積極的な販売活動を行った結果、新製品の受注拡大と併せて、既存品についても販売増加したことから、売上が前年同期を上回りました。

原材料は、第3四半期に入り為替が円安になり、原油・ナフサ価格が昨年比で引き続き上昇したこと、中国からの輸入原料価格も高値が継続し、副原料についても価格上昇があったことにより、原材料価格が引き続き上昇しました。この影響を最小限とするため、製品価格の価格改定を進めるとともに、内外の新規調達先の探索や評価を行いコストダウンの努力を積極的に行いました。

生産においては、市場環境変化による需要の増減や、内外の顧客要望に応えるため、既存製品・新規製品ともに生産数量や時期並びに人員配置の効率化を行い、あわせて合理化検討に全社を挙げて取り組みました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は54億74百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は1億22百万円（前年同期比37.1%減）、経常利益は1億19百万円（前年同期比36.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は88百万円（前年同期比34.5%減）となりました。

セグメント業績の概況は次のとおりであります。

#### ①化学工業薬品事業

売上高は54億45百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント利益（営業利益）は99百万円（前年同期比42.6%減）となりました。

#### ②不動産賃貸事業

売上高は28百万円（前年同期比5.9%増）、セグメント利益（営業利益）は22百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

（化学工業薬品事業の部門別の概況）

#### <ゴム薬品>

ゴム薬品の分野は、国内向けは、当期に入り国内自動車販売や生産がほぼ前年同期並みで推移しました。このような環境の中、工業用品向け薬品は、主要製品の拡販に注力し、一部商品において顧客の在庫調整による減少はありましたが、加硫促進剤や老化防止剤について売上を伸ばした結果、前年同期の売上を上回りました。タイヤ向け薬品は、海外品との競合がありましたが、顧客の需要増に合わせ拡販に注力した結果、前年同期の売上を上回りました。合成ゴム向け薬品は、品目により増減があり、全体では売上が前年同期並みの売上となりました。海外向けは、東南アジアの持ち直し傾向が継続し、顧客需要の拡大に対し拡販努力を行った結果、数量は前年を上回りましたが、上半期において為替が昨年と比較し円高で推移したことから売上は前年同期並みとなりました。

この結果、国内・輸出合わせてのゴム薬品の売上は33億33百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

<樹脂薬品>

樹脂薬品の分野は、国内向けは、アクリル酸・アクリル酸エステルが生産が引き続き堅調で推移しましたが、当社の主要製品において輸入品との競合が一層激しくなったため、売上は前年同期を下回りました。海外向けは、中国をはじめとする各国の既存顧客が回復傾向で継続したことから、商品ごとに市場需要に合わせた拡販活動を積極的に行った結果、新規受注もあり、売上が前年同期を上回りました。

この結果、樹脂薬品部門合計の売上は6億57百万円（前年同期比12.7%増）となりました。

<中間体>

中間体分野は、界面活性剤中間体は品目により増減がありましたが、売上が前年並みとなりました。染顔料中間体及び農薬中間体は主要品目においては、商品により増減がありましたが、一部品目の需要減もあり、全体として売上が前年同期を下回りました。医薬中間体・機能性化学品は、品目別に増減がありましたが、海外向けの受注増もあり全体では売上が前年同期を上回りました。

この結果、中間体部門合計の売上は5億47百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

<その他>

その他分野は、環境用薬剤は、年末年始の需要増やその後の堅調な需要により売上が前年同期を上回りました。潤滑油向けは品目により増減がありましたが、全体では売上が前年同期を下回りました。新規用途向けは、新規商品の売上が増加したことと、既存製品においても主要品目で売上を伸ばした結果、全体では売上が前年同期を大幅に上回りました。

この結果、この部門合計の売上高は9億7百万円（前年同期比20.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産につきましては66億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億61百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が1億5百万円、たな卸資産が2億58百万円、有形固定資産が3億34百万円増加したことに対し、現金及び預金が3億17百万円減少したことによります。

負債につきましては48億89百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億21百万円増加いたしました。これは主に、借入金が3億73百万円増加したことに対し、未払法人税等が46百万円減少したことによります。

純資産につきましては17億71百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が52百万円増加したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年11月期の連結業績予想につきましては、平成30年7月5日に公表いたしました連結業績予想の数値に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	844,627	526,669
受取手形及び売掛金	2,171,728	2,277,704
商品及び製品	696,542	826,925
仕掛品	275,570	350,179
原材料及び貯蔵品	312,835	366,536
その他	49,473	42,950
貸倒引当金	△3,704	△3,872
流動資産合計	4,347,073	4,387,094
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	759,751	708,509
その他(純額)	931,126	1,316,473
有形固定資産合計	1,690,878	2,024,983
無形固定資産		
その他	15,129	17,346
無形固定資産合計	15,129	17,346
投資その他の資産		
その他	259,538	245,472
貸倒引当金	△13,417	△14,073
投資その他の資産合計	246,121	231,399
固定資産合計	1,952,129	2,273,729
資産合計	6,299,202	6,660,824
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,132,533	1,235,826
短期借入金	860,000	1,550,000
1年内返済予定の長期借入金	690,223	881,498
未払金	258,978	362,799
未払法人税等	51,020	4,674
未払消費税等	6,786	—
賞与引当金	—	58,092
役員賞与引当金	12,000	10,500
その他	378,728	106,404
流動負債合計	3,390,269	4,209,795
固定負債		
長期借入金	609,880	102,188
役員退職慰労引当金	78,373	84,617
退職給付に係る負債	321,921	337,450
その他	166,901	154,983
固定負債合計	1,177,076	679,239
負債合計	4,567,345	4,889,034

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	610,000	610,000
資本剰余金	58,437	58,437
利益剰余金	1,019,311	1,071,468
自己株式	△7,652	△7,709
株主資本合計	1,680,096	1,732,196
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,115	32,609
為替換算調整勘定	10,645	6,983
その他の包括利益累計額合計	51,760	39,592
純資産合計	1,731,857	1,771,789
負債純資産合計	6,299,202	6,660,824

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年12月1日 至平成30年8月31日)
売上高	5,112,355	5,474,371
売上原価	4,184,054	4,546,326
売上総利益	928,301	928,045
販売費及び一般管理費	734,116	805,808
営業利益	194,185	122,236
営業外収益		
受取利息	349	412
受取配当金	1,567	2,188
為替差益	1,095	—
貸倒引当金戻入額	100	—
受取手数料	—	2,419
その他	4,423	6,459
営業外収益合計	7,535	11,480
営業外費用		
支払利息	9,498	9,550
貸倒引当金繰入額	—	639
為替差損	—	3,649
支払補償費	2,556	—
その他	1,209	550
営業外費用合計	13,264	14,390
経常利益	188,455	119,326
特別損失		
固定資産除却損	216	2,363
特別損失合計	216	2,363
税金等調整前四半期純利益	188,239	116,962
法人税、住民税及び事業税	34,530	22,837
法人税等調整額	18,242	5,430
法人税等合計	52,773	28,267
四半期純利益	135,466	88,695
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	135,466	88,695



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年12月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益	135,466	88,695
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,741	△8,506
為替換算調整勘定	700	△3,662
その他の包括利益合計	16,442	△12,168
四半期包括利益	151,908	76,526
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	151,908	76,526
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,085,400	26,955	5,112,355	—	5,112,355
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,085,400	26,955	5,112,355	—	5,112,355
セグメント利益	173,127	21,057	194,185	—	194,185

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来、「有機化学工業薬品事業」の単一セグメントでありましたが、重要性が増加した「不動産賃貸事業」を前連結会計年度より報告セグメントに追加し、「化学工業薬品事業」及び「不動産賃貸事業」の2区分に変更しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年12月1日 至 平成30年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,445,838	28,532	5,474,371	—	5,474,371
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,445,838	28,532	5,474,371	—	5,474,371
セグメント利益	99,411	22,825	122,236	—	122,236

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。